

第2学年国語科の実践

文しょうのちがいを考えよう 「サツマイモのそだて方」

単元の目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
二つの文章を読み比べ, 目的に応じて説明の仕方に共通点や相違点があることや事柄の順序の関係を理解することができる。	二つの文章を読み比べる上で必要な語や文を考えて選び出すことができる。	説明の仕方の違いに興味を持ち, 進んで二つの文章を読み比べようとするすることができる。

単元について

本単元は, サツマイモの育て方について説明した二つの文章の説明の仕方の違いを考えながら読み, 目的に合わせて説明の仕方に違いがあることを理解することができることをねらいとした。これは, 学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容〔知識及び技能〕(2)ア「共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」及び〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」の指導事項に関連する。

本教材は, サツマイモの育て方について説明した二つの文章からなる。一つ目は, 時間的な順序で, サツマイモの育て方について順を追って説明した文章である。二つ目は, 見出しを用いて, 立派なサツマイモをたくさん育てるためのポイントを説明した文章である。二つの文章を読み比べる学習活動を通して, それぞれの文章の良さや目的の違いに気付かせ, 目的に応じて, 書かれている事柄や順序, 説明の仕方には共通点や相違点があることを理解することができる。

これらのことから, 本単元は指導事項を指導するのに適していると考えられる。

児童について

本学級の児童は, 第1学年「どうやってみをまもるのかな」や「いろいろなふね」, 第2学年「たんぼぼ」の学習において, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 文章の内容を正しく読み取る学習をしている。アンケートの結果, 「説明文を読むときに, 順序に気を付けて読んでいる」と, 85.7%の児童が答えている。しかし, 「たんぼぼ」の教材文を使ったプレテストの結果, 書かれている内容を正しく読み取ることができた児童は85.7%, 書かれている順序を正しく理解することができた児童は67.9%であった。

また, 児童は, 第1学年「歯がぬけたらどうするの」の学習で, 文章を読んで, 内容の共通点や相違点を考える学習をしている。しかし, 二つの文章を比べて読み, 説明の仕方の共通点や相違点を考える学習は, 今回が初めてである。アンケートでも, 64.3%の児童が二つの文章を比べて読んだことがないと答えており, 二つの文章の違いを考えることに抵抗感のある児童が少なくないことが予想される。

児童は, 学校でサツマイモを栽培しているので, 教材文に書かれている内容に興味や目的意識をもって読むことができると考える。

指導について

【「わかる」「できる」授業にするための指導の手立て】

- ・単元を通して, サツマイモを育てるのに, どちらの文章を選んで読みたいかとその理由を考えさせるようにし, 学習につながりをもたせる。
- ・毎時間の学習の足跡を掲示したり, ワークシートを一冊の本のようにまとめさせたりして, 前時までの学習を確認することができるようにしておく。
- ・様々な方法で何度も音読させることで, 書かれている内容の大体を捉えられるようにする。
- ・板書やワークシートで一つ目の文章と二つ目の文章を上下に並べて提示することで, 共通点や相違点を見付けやすくする。

【個別の指導計画を作成した児童について】

児童の実態

- ・文章を読んで、書かれている内容や問われている内容を理解することが難しい。
- ・文を書いたり書き写したりするのに時間がかかる。
- ・学習したことを忘れやすく、なかなか定着しない。

つまずきの要因

- ・覚えていない漢字が多くある。
- ・言葉や文のまとまりとして読む力が十分ではない。
- ・意味が分からない言葉が多い。
- ・主述の理解に課題がある。
- ・一文字一文字確認しながらでないと、書くことができない。

指導の手立て

- ・読んでいる部分を指でなぞるように声をかけたり、範読や他の児童の音読を聞かせたりすることで、文章に書かれている内容を理解することができるようにする。
- ・大事な語や文のみを抜き出しやすいヒントカードを用意して、書かれている内容が理解できるようにする。
- ・ワークシートや掲示物で既習の内容をいつでも確認できるようにする。

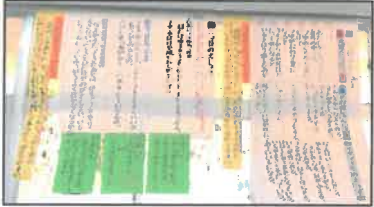

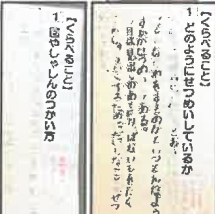


単元の計画(全 10 時間)

	学習活動	時数	指導上の留意事項
課題の設定	○ 学習の見通しをもつ。	1	◇ 「いろいろなふね」や「たんぼぼ」と同じ説明文の学習であるが、ねらいが「説明の順序」から「説明の違い」に変わっていることを確認する。
	○ 学習計画を立てる。	1	◇ サツマイモを育てるのに、どちらの文章を読みたいかを考えさせる。
情報の収集 整理・分析	○ 一つ目の文章の内容の大体を読み取り、一つ目の文章の良さを見付ける。	2	◇ 様々な方法で何度も音読させる。 ◇ 一つ目の文章は、時間の順序に気を付けながら、大事な語や文を抜き出して、書かれている内容を表に整理させる。
	○ 二つ目の文章の内容の大体を読み取り、二つ目の文章の良さを見付ける。	2	◇ 二つ目の文章は、見出しを手掛かりにしながら、大事な語や文を抜き出して、書かれている内容を表に整理させる。 ◇ それぞれの文章の良さを「～だから、分かりやすい」という文型でまとめさせる。
まとめ・創造・表現	○ 二つの文章を読み比べ、相違点を考える。	1 (本時)	◇ 一つ目の文章と二つ目の文章を上下に並べ、「文章の長さ」「図や写真の使い方」「文章の構成」の三つの観点を示して、違いに気付かせる。
	○ 共通点に目を向けて二つの文章を読み比べ、二つの文章の特徴について考える。	1	◇ 共通して書かれていることについて、説明されている内容がどう違うのかを考えさせる。
	○ 二つの文章のどちらを選んで読みたいかを考える。	1	◇ 前時までの学習を基に、二つの文章の良さを確かめさせ、目的によってどちらの文章を選ぶかが変わってくることを捉えさせる。
実行振り返り	○ 単元の学習を振り返る。	1	◇ 振り返りカードを活用し、視点を示して、振り返りをさせる。 ◇ 説明の違いは、文章の目的に応じて生じるもので、それぞれに良さがあることを確認し、今後の調べ学習などの際にも、説明の仕方の違いに気を付けて本や資料を選ぼうという意欲をもたせる。

本時の目標

○ 二つの文章を読み比べ、相違点について考えることができる。

【思・判・表】

学習活動	児童の発言・反応	「わかる」「できる」ための指導の手立て (◇=全体 ◎=個別)
<p>1 前時までの学習を想起し、二つの文章の良さを確認する。 【全体】</p>  <p>2 本時のめあてを設定する。</p>	<p>一つ目の文章は、時間の順序通りに、いつどんな世話をするのかと、いつどんな様子が説明してあるから分かりやすい。</p> <p>二つ目の文章は、見出しの後に、立派なイモをたくさん収穫するために気を付けることを詳しく説明してあるから、分かりやすい。</p>	<p>◇ 想起させるために、既習内容の掲示物やこれまでのワークシートを参考にするように声をかける。</p> <p>◎ 情報が多いと混乱することが予想されるので、一つ目の文章、二つ目の文章を別々に考えさせる。</p>
<p>二つの文しょうをくらべて、ちがうところを見つけよう。</p>		
<p>3 文章を比べる観点を確認する。 【全体】</p> <p>4 二つの文章を音読する。 【グループ】</p> <p>5 二つの文章を比べて、相違点を見付ける。 【グループ】→【全体】</p>  	 <p>一つ目の文章の方が長い。</p> <p>一つ目の文章は写真、二つ目の文章は図を使っている。</p> <p>一つ目の文章は、世話の順番が時間の順番で説明してある。</p> <p>二つ目の文章は、見出しがあって、見出しの後に詳しく説明してある。</p>	<p>◇ 「文章の長さ」「図や写真の使い方」「文章の構成」の三つの観点を示す。</p> <p>◇ グループごとに音読の方法を選択させる。</p> <p>◎ 読んでいる部分を指でなぞるように声をかける。</p> <p>◇ グループ用のノートを準備し、話し合ったことを記録できるようにする。</p> <p>◇ グループごとに着目する観定の順番を指示する。</p> <p>◎ 話し合いをリードできる児童と同じグループにする。</p> <p>◇ 見付けた相違点を短冊に書かせる。</p> <p>◇ 児童が発表した考えを観点ごとに板書で整理する。</p>
<p>6 二つの文章の違いを基にして、それぞれの文章の良さについて話し合う。 【全体】</p> 	<p>写真があると、サツマイモの様子がよく分かる。</p> <p>図があると、説明が分かりやすくなる。</p> <p>一つ目の文章は、時間の順序通りに書いてあるから、分かりやすい。</p> <p>二つ目の文章は見出しのあとに詳しい説明が書いてあるから、分かりやすい。</p>	<p>◇ 写真や図については、ない場合と比べて、あるとどんな良いことがあるかを考えさせる。</p> <p>◇ 前時までの学習とつなげて考えるようにさせる。</p>

つかむ

考える

深める



7 二つの文章の相違点をまとめる。



【個人】

8 まとめたことを発表し合い、本時のまとめをする。

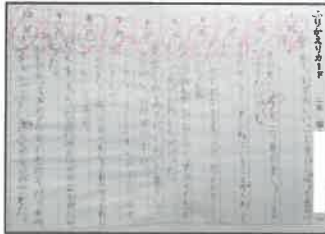
【全体】

9 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

【個人】

☆ 二つの文章の相違点についてまとめている。

【思・判・表】
(ワークシート)



◇ 三つの観点のうち、書きやすいものからまとめさせる。

◎ まとめ方の文型を書いたヒントカードを渡す。

◇ 早くできた児童は、それぞれの文章の良さについても書かせる。

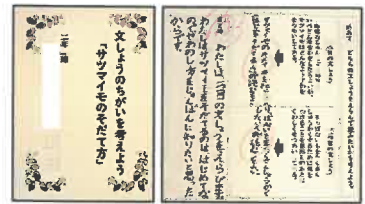
◇ 相違点を見付ける中で共通点についての気づきがあった場合は、次時以降の学習につなげる。

◇ 本時のめあてについて、学習を振り返ることができるようにする。

◎ 振り返りの文を書くことが難しい場合には、◎○△で振り返りを書かせる。

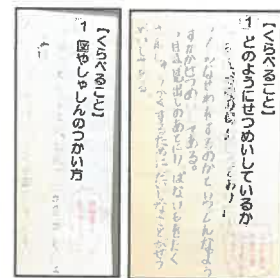
成果と課題

○ 毎時間の学習の足跡を掲示したり、ワークシートを一冊の本のようにまとめさせたりしたことで、児童は前時までの学習を確認しながら学習を進めることができ、学習につながりをもたせることができた。また、単元のねらいやゴールを単元の導入で児童と共有し、単元を通して、「自分がサツマイモを育てるなら、二つの文章のどちらを選んで読みたいか」を繰り返し考えさせるようにしたことで、児童は目的意識をもって主体的に学習に取り組み、単元の目標を達成することができた。



(ワークシート綴り) (まとめのワークシート)

○ 学級全体の児童の実態、個別の指導計画を作成した児童の実態を基に、きめ細やかな手立てを工夫したことで、児童にとって「わかる」「できる」授業となった。特に、「文章の長さ」「図や写真の使い方」「文章の構成」の三つの観点を示し、グループで二つの文章の相違点を見付けてから全体で話し合うようにすることで、初めてでも抵抗感なく二つの文章を比較することができた。



(比較しやすくするために上下に並べた教材文)

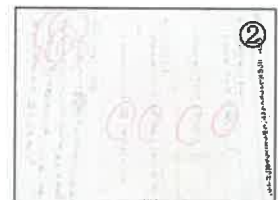
(グループノートを活用したグループ活動)

(観点とヒントを示したグループノート)

● 本時で二つの文章の相違点についてまとめさせる際、①のような罫線だけのワークシートだと、ほとんどの児童が何をどのようにまとめて良いのか分からず、戸惑ってしまった。一方、個別の指導計画を作成した児童のために準備した②のようなまとめ方の文型を示したヒントカードを渡した児童は、自力でまとめることができた。二つの文章の相違点について考えたりまとめたりする学習は、今回が初めてだったので、黒板または電子黒板で、全員にまとめ方の文型を提示することで、今回のような戸惑いはなくなったであろう。



(罫線のためのワークシート)



(文型を示したワークシート)

罫線だけのワークシートでまとめることができた児童	21.4%
まとめ方の文型を示したヒントカードを使った児童	25.0%
まとめ方の文型を見ながらまとめた児童	53.6%
B規準に達した児童の割合	100%